

# English Fairy Tales の出版経緯と再話

## — Joseph Jacobs の再話意図 (1) —

藤本朝巳

### 一、はじめに

*English Fairy Tales* (『英国の昔話集』) は、Joseph Jacobs (ジョセフ・ジェイコブズ)<sup>(1)</sup>によって採集、再話され、一八九〇年にロンドンの David Nutt 社より出版された。その後、この昔話集はシリーズもののとして、*Celtic Fairy Tales* (『ケルトの昔話集』) (一八九一)、*More English Fairy Tales* (『続 英国の昔話集』) (一八九四)、*More Celtic Fairy Tales* (『続 ケルトの昔話集』) (一八九四) と、続けて刊行され、好評を博した。長年読み継がれている理由はさまざま考えられるが、その理由の一つは、これらの本の内容がおもしろいだけでなく、声に出して読むことを意図して編集されており、その再話文体は読み手にも聴き手にも心地よく、また聞いてわかりやすい文体となっていたからである。すなわち、彼が編集・出版した再話文体が、よく整えられていたことが、長年愛好されてきた理由であると思われる。

この論考の目的は、ジェイコブズの『英国の昔話集』における、独特的の再話方法を明らかにするにある。<sup>(2)</sup>この論考では目的を達するために、まず、彼が編んだ昔話集の出版までの経緯と、その出典先を明らかにしたい。その理由は、彼が『英国の昔話集』を自分の意図する読みものとして完成するために、当時、英国で集められていた貴重な資料の中から選出し、編集した方法と、その再話方法には密接な関係があるようと思われるからである。(なお、筆者はこの昔話集の原話のほとんどを入手し、現在、原話と彼の再話を細かに比較検討している。本稿では、その結果の一部を報告し、全ての分析が終了次第、あらためて別の機会に彼の再話について詳しく記したい。)

い)では、次のように書き進めていく。はじめに、当時の英國の社会的状況とフォークロアをめぐる動向を記し、『英国の昔話集』(第一巻)が、なぜ一八九〇年という年に出版されたのかを考察する。続いて、『英国の昔話集』(全四三話)の出典先を、彼の記した注意書きを参考に明示する。今回は、この昔

話集に取り入れられた話の出目数の最も多かった（九話）、J. O. ハリウエル（一八二〇—一八四九）の *Nursery Rhymes and Nursery Tales of England*（『イングランドの伝承童話とおとぎ話』一八四九<sup>(2)</sup>）からの再話について簡潔に記す。以上を記した上で、これら九話の再話方法について短かく述べてみたい。最後にまとめをし、また今後の課題を記したい。

## 二、当時の英国社会とフォークロアをめぐる動向

はじめに、一八世紀末から一九世紀前半にかけての英國の社會的推移と、一九世紀前半から一九世紀末にかけての、英國のフォークロアをめぐる動向（出版物の刊行と研究の所在など）について簡潔に述べておく。

英國では、一八世紀末に始まつた産業革命が一九世紀前半までにはばその過程を終えている。その結果、工業生産力は飛躍的に増大する。このような社會・經濟上の変化は、階級の違いを超えて、人びとの生活に大きな影響を与える、その生活様式を根本的に変化させた。この変化が英國を前近代社会から近代社会へ変えていったのであり、この時期に、英國は前工業化社会から工業化社会へと変化したといえる。

前工業化社会において人口の大部を占めていた農民たちは、代々、田舎の村落共同体で生活をしていた。ところが、彼らの生活は社會の変化に伴い、一変する。それまで田舎の地主

の土地に縛られていた農民は、都會の工業地域の労働力として必要とされるようになり、支配者の土地を離れ、都會へと移住する者が増えた。また、宗教改革は働くことに積極的な価値を与える、働く者は所得を得るようになり、教育、娯楽、福利の厚生などを求めるようになった。このような動きに重なるように、労働者階級にも読み書き能力が必要とされ、また民衆の子弟への教育も普及していった。当然のこととして、印刷技術が発展し、出版文化にも拍車がかかった。そして、最初の手頃な読みものとして選ばれたのが昔話などであった。

一方、当時の英國におけるフォークロア関係の動きを見ると、活字による昔話の紹介、普及は翻訳ものから始まったことがわかる。初めはチャップマン<sup>(3)</sup>により、廉価版娯楽本が大量に売り歩かれるのであるが、注目すべきは、一七二九年には、Robert Sambler がシャルル・ペロー（仏）の *Histoires, or Tales of Times Past* を英訳して出版していることだ、この翻訳本は当たりし、当時の最も人気ある読みものになつたという。

また、一九世紀になると、グリム童話（独初版は一八一二年）の英語版（『英訳グリム童話選集』）が、弁護士の Edgar Taylor によって翻訳出版されている（一八二三年）。この書物にはジョージ・クルックシャンクが挿絵をつけて、出版物として大成功している。一八四八年には、Edward Taylor によって、ジャンバッティスタ・バジーレの *Pentamerone* が初めて英訳出版された。この書物にもクルックシャンクが挿絵をついている。もちろん

他にも同じような書物が出されているが、英語訳グリム童話は、挿絵をつけ、難しい注釈はつけないという編集形式を取り入れたことが出版物として成功した理由であると思われる。

さらに、一八六七年から七六年にかけて、画家ウォルター・

クレインが、彼のトイブック・シリーズとして、多くの昔話に多色刷りの挿絵をつけて出版している。そこには「美女と野獣」、「青ひげ」、「長靴をはいた猫」などが含まれていた。そして一八八二年に、クレインが、彼の姉妹ルーシー・クレインの翻訳した『グリム童話』に挿絵をつけて出版し、成功している。

なお、この時期、ヨーロッパの各国で、すぐれた物語集が出版されている。英國のフォークローリストと出版界は大いに刺激を受けているはずである。<sup>(4)</sup>

一方、フォークロア研究の動向を見ると、一八七八年に *The Folklore Society* が創設されている。この組織の刊行物として、一九七九年には *Folklore-Record* が創刊された。当初、この組織の目的は本とジャーナルを刊行することにあり、会員は年一回集まるくらいのものであった。しかし、一八八〇年代になると、ときどきレクチャーなどを行うようになり、一八九〇年からは定期的な会が運営されるようになった。

また一八九〇年には、ジェイコブズの提唱により、ジャーナルの名称が *Folklore* と改められ、彼が初代の編集責任者に選出され、以後三年間、責任ある仕事を行っている。またジェイコブズは、一九〇〇年まで会の理事として継続して働き、この

時期に彼はフォークロアの収集を行い、語り口を研究し、再話の仕方、編集方法などを学びながら、昔話集の出版を行ったのである。成功の理由の一つとして、彼が語学に堪能であったことがあげられる。

ところで、フォークロア界の動向として注目しておくべきことは、当時の心あるフォークローリストたちが、フォークロアが、すでに廃れつつあると危惧し、活字にして書き留め、英國に残そうと努めていたことである。例えば、当時のすぐれたフォークローリストで、後にフォークロア学会の会長も務めた E. S. ハートランドは、昔話集『イングランドの妖精譚と昔話』(一八九〇)<sup>(5)</sup> の序文に、以下のように記している。

……フォークテイルは、文学の形式であるとしても、數少ない伝統的な物語としても、以前は程度の差こそあれ、この国に疑いなく豊かにあったものである。しかし今や、近代生活の重圧のもと、急速に廃れつつある。それゆえ、読者は、常に親しみをもつてきた昔話の多くを、当然の流れとして失ってしまうであろう……このような話の中には、自然に語り継がれたというわけではなく……チャップ・ブックにしてフランスから持ち込まれ、翻訳されたものもある。また最近は、「なじみのあつたお気に入りの「ジャックと大男」(Jack the Giant-Killer) のような話の、きちんとした版を手に入れることのがむずかしくなった」と、すぐれた書き手が嘆くこと

ばも耳にするようになつた……物語（The story）というのは時という風化の影響を受けるものであり、他の国々の同じような話と同様、鋭く削られてしまうと、もはや細部を補うことは不可能になるものである。それどころか、多くの話はその骨子となる部分すら、もはや壊され、損なわれたままになっている。もっと悪いことは、その台無しにされた状態でぽつんと置き去りにされているのである。

（翻訳、（ ）内、線は筆者による）

これらの文章には、昔話が改ざんされたり、廢れてしまふ前に、きちんと記録して残しておきたいという、フォークローリストの切なる思いが綴られている。

以上、一八〇一九世紀の社会の推移、ヨーロッパ各国の昔話集の出版の影響、英國のフォークロア界の動きなどから、彼の昔話集が一八九〇年に出版された経緯を述べてきた。この間の経緯を見ていくと、彼の昔話集は、さまざまな要因が重なつて、この年に出るべくして出され、當時、多くの人びとに、喜んで迎え入れられた理由が了解できる。

### 三、ジエイコブズの再話の意図

さて、ジエイコブズは『英國の昔話集』の「序文」に、以下のように記している。

……私は、（この選集を作るにあたつて）多く場合、特に方言で書かれたフェアリー・テイル（Fairy Tales）を、かなり書き直さなければならなかつた。なお、これらの話にはスコットランド低地地方のものも含んでいる。というのも、（最近では）子どもたちは、ときには多くの大人でさえも方言を読もうとしないからである。また、私は一八世紀のチャップ・ブックの仰々しい言葉遣いを整え、「文学」に現存する英語を使い、語り口（style）を、物語（stories）のもつ簡潔な口調に書き改めねばならなかつた。とはいへ、民衆の語り口調である卑俗な言葉遣いもいくらか残しておいた。子どもたちは、年長者と同じように、聞き手を惹き付ける、このような語り口を味わい楽しむであろう。全般的には、私は、良き婆やがフェアリー・テイル（Fairy Tales）を語るときの口調で書き記すことを願つて再話した。そのような話術、話し言葉のわくわくする調子がうまく表現できたかどうかはさておき、私がなさねばならなかつたこと、私の主なる目的というものは、英國の子どもたちが聴きたがつていて、未だ読む本として出されたことのない、英語のフェアリー・テイル（Fairy Tales）を、本にして与えるということであった。従つて、この書物は、単に目で読まるだけでなく、声に出して読まることを意図して書かれたものである。

（翻訳、（ ）内、線は筆者による）

右記の線部分のごとく、彼は、この昔話集の再話の意図をはつきり述べている。すなわち、『英國の昔話集』は語られること、また声に出して読まれることを意図して再話されたのである。

ところで、フォークローリストとして真摯な研究者であったジェイコブズは、この再話集を編むにあたって、各巻末に全話の出典先、類話、異話などについて克明に記している。その上、必要と思われる場合、注も書き添えている。幸い、筆者は各國の大学や図書館、また世界各国の古書サイトを通して、『英國の昔話集』等の原話の入手可能なものをほとんど集めることができたので、その原話と彼の再話を詳細に比較検討することが可能となつた。そこで、これらの実証的な分析に基づいて、現在、彼の再話法についてまとめているところである。

#### 四、『英國の昔話集』の出典先

いりで、ジェイコブズが *English Fairy Tales* に組み込んだ話の出典先について述べておく。この作品には全部で四三話が掲載されている。これら四三話のうち、彼は J. O. ハリウェルの『イングランドの伝承童話とおとぎ話』から九話を探録している。これは全話の約五分の一にあたり、出典先として最も多い。以下、掲載順に並べておく。

4 お婆さんと子豚 6 酢のだんな

12 ちつちやい・ちつちや

い 14 三匹の子豚の物語 16 姉さんねずみともじやもじやね  
ずみ 25 親指トムの話 27 ものぐさジヤック 34 猫とねずみ  
43 井戸の中の三つの首

なお、『イングランドの伝承童話とおとぎ話』は一八四九年、ロンドンのフレデリック・ウォーン社 (Frederick Warne and Co.) から出版されている。ハリウェルはこの本の序文に、内容を伝承童話 (Nursery Rhymes) とおとぎ話 (Nursery Tales) に分けて、それぞれについて、以下のように記している。

##### A 伝承童話について

「古来、スカンジナビア（デンマーク、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドなど）から移入され、これらの話は今なお英国で人気のある童話である」と記している。

その理由として、「幾世代にもわたって、北部の母たちによつて歌い続けられたライムを、一九世紀の幼児や子どもたちが絶やさなかつた」のだと述べ、「このような伝承の

ライムは、幼い子どもにもわかりやすく、また、子どもたちの想像力を培うに影響力があつた」と記している。

また、「ライムの motifs 滑稽で、弾むような楽しさは、自然に子どもの心をとらえる。伝承童話は歌いながら楽しみ、日常の心配事から解放し、元気づけるような効果をもつ。（通常、両親というものは事実のみを教え諭すゆえ、子どもの想像力の何かを失わせてしまいがちであるが）」と記

している。

ハリウエルは、「これらの伝承童話は、英國のあらゆる州の本道、脇道から選りすぐつて集められたものであるが、このような童話は馬鹿馬鹿しくて、子どものためにならないと心配する向きもあるう」と断つた上で、「これらの童話を子どもたちに与えるかどうかは、両親の判断に任せること記している。

彼は「伝承童話は、幼いころに子どもたちが経験する多くの面白い煩いから、子どもたちを解放し、精神を落ち着かせ、心から楽しませるものである」と結んでいる。

#### B おとぎ話について

彼は「我々の時代の飾り気のないファイクション（おとぎ話）の方が、現代の作家のおもしろみのない、入念に構成された作品より、想像力を駆り立てるに、また人の氣質を高めるに、より効果がある」と述べている。

ハリウエルは、素朴で、想像力豊かな古来のおとぎ話の力を確信し、「読者につまらない文学的作品を提供するのではなく、消滅の危機にあるおとぎ話を救い出し、復活して与えること」を強く提倡している。彼自身は、「もつと多くの話が集められる」と期待しながら、しかし、自分の収集に限界があることを吐露し、今やおとぎ話の多くが世に知られていない地方でのみ記憶されていて、数世紀にわたりて流布してきた短い伝承の物語を入手することは非常

に困難な状況にある」と嘆いている。しかし、「入手できただわずかな話の中には、かなりめずらしい興味深い話も含まれている」と述べ、「この種の物語は疑いなく口伝えによつて入手するものである……そして、おそらく、ある種の文学的に大切な部分は復讐が可能である」と述べている。  
（翻訳、（ ）内、線は筆者による）

ジエイコブズは一八九〇年に『英國の昔話集』を出版しているが、その前年の八九年にハリウエルが他界している。ハリウエルの死とジエイコブズの出版には何らかの因果関係があつたに違いない。例えば、両者の間には版権の問題等があつたかもしれない。また、ジエイコブズはハリウエル同様、昔話が廃れることを危惧していたので、ハリウエルの志（筆者の線部分など）を受け継ぎ、ハリウエルの集めた〈伝承童話〉と〈おとぎ話〉を多く採り入れ、その資料を元に再話したと考えるのは自然な成り行きである。いずれにしても、彼がハリウエルの資料とともに見事な文体の昔話集を作り上げ、一八九〇年に出版したことは意義深いことであつたといえる。

次に多いのが、W. H. ヘンダーソン（一八一三一九一）の『イングランドの北部諸州と境界地帯のフォークロアについてのノート』（一八六六<sup>(6)</sup>）から、七話を採録している（ただし、そのうちの一話は第二版（一八七九年）から採っている）。これは全話の約六分の一にあたる。以下、掲載順に並べておく。

3 ばらの木 8 ジャック・ハナフォード 15 魔法使いと弟

子 24 金の腕 35 魚と指輪 38 ヒルトン屋敷の妖精 39 ろ  
ばとテーブルといん棒

23 赤ふく人

*Popular Rhymes of Scotland*, by Robert Chambers

次に、当時の *Folk-Lore Journal* (トマーオーク・ロード・ジャーナル) 一八八三年～一八八九年、*Folk-Lore Society* 刊行の

ジャーナル、全七巻) より採録されたものは、以下の七話である。

1 トム ティット トット 2 三人の愚か者 11 い草のやぎ  
ん 22 モリー・ヴァンシー 26 フォックスさん 37 くるみ  
割りのケイト 40 妖精のぬり薬

まだ、以降の一項が、*American Folk-Lore Journal* からの採録  
されてゐる。

5 ジャックの運探し 28 ハベスヘリーパー

以下の九話は、それぞれ、以下の本から採録されてしまつた。

7 なん・なん・なんにもな」 *Custom and Myth*, by Andrew Lang

9 "ツノリーハ "Twa Sisters o' Binnorie" *The Ballad Book*,

by Mr Allingham

17 ジャックと金のたばこ入れ *In Gipsy Tents*, by Mr F.

Hindes Groome

18 三匹の熊の話 *The Doctor, &c.*, by Southey

21 若殿ローハハズ *Illustrations of Northern Antiquities*, by

Jamieson

23 赤ふく人

*Popular Rhymes of Scotland*, by Robert Chambers

29 マー伯爵の娘 *The Ballad Book*, by Mr Allingham

32 奇妙な訪問者 *Popular Rhymes of Scotland*, by Robert Chambers

33 ベジハーブルベームの魔のしゃみ *Monthly Chronicle of North Country Lore*

次の四話は、記憶された話、また口承された話、あるいは文字としての記録のなまめのりであり、原資料の入手は不可能で、再話の分析ができないなかつた。

10 ねやみと猫 *Lady Burne-Jones* の記憶によつて

30 ミヤツカおじさん Mrs B. Abrahams の記憶によつて  
13 ジャックと町のいぬ 一八六〇年いぬ、ホーストワード

聞いた話  
20 めんじつせん 一八六〇年いぬ、オーストラリアで聞いた  
話

以下も出典先是「チャック・ブックより採集したもの」とい  
う説明があるだけで、原資料がわからず、分析できなかつた。

19 巨人退治のジャック 大英博物館の一冊のチャック・ブッ

クより採集したもので、原資料の入手が不可能であるため、分析できなかつた。

31 ウィットイントンと彼の猫 三冊のチャップ・ブックの版から繰り接ぎして作ったもので、原資料の入手が不可能であるため、分析できなかつた。

以下は二つの神話を作成して、彼自身が作った話と記されている。おそらく、神話を元に作った創作に近い話である。

36 かわらわの巣  
以下も特殊な手法で作られた話である。すなわち、*The Complaint of Scotland* の Leyden 版が原資料であるが、それにハリウェルがライムの調子を変え、さらに、はじめの部分は Mayhew, *London Labour*, iii, 390 から取ったものどうう。*The Complaint of Scotland* は文献が古く、複写も借用もできない状態であり、比較分析は不可能であつた。

41 世界の果ての井戸

以下は、英國に広く流布していた、複数のおどけ話の資料から合成して作られた話である。ジェイコブズは、メイヒューの救貧院において、ある若者が語った話 (*London Poor*, iii, 391) と、四つの類話 (*7 Notes and Queries*, iii 35, 87, 159, 393) を元に作った話と記している。

#### A. 句読点の打ち方の変化

例えれば、「姉さんねずみともじやもしやねずみ」では、カンマをコロンにし、会話部分はすべて「」で包んでわかりやす

42 だんなの中のだんな様

#### 五、再話について

以下、ジェイコブズの再話について具体的に記したい。

##### (一) 体裁(活字の組み方)

ハリウェルの『イングランドの伝承童話とおどけ話』は、縦一八・五センチ×横一三・五センチ×厚さ二・五センチ、版型でいえば A 五版を、ひと回り小さくした大きさの本である。全三五一ページの中に、虫眼鏡で見ないとわからないほど、小さな活字であつてしまふと伝承資料が掲載されている。しかも(伝承童話)の組み方は縦二段組みである。この組み方を見ると、この本は読んで楽しむ本ではなく、貴重な資料を集め、活字にして保存することを意図した資料集であったと思われる。<sup>(7)</sup>この資料集から採った話をジェイコブズは再話していくのである。当然、紙面に余裕のあるジェイコブズの本では、活字の組み方を変えることができた。そこで、ジェイコブズは、体裁に余裕を持ち、全体的に見やすい、読みやすく組んでいる。

～～～～～。あた、口口へをピコトホミリ～ 文章を切ひて、次の  
の文章を大文字で始める～

四 指定の形の変化（表記を改めた）  
「ぬ～ぬ～～、ぬ～ぬ～～」 だせ、

〔図〕  
(ハコカル版)

Then Tatty sat down and

wept; then a three-legged stool

said, "Tatty, why do you weep?"

Tatty's dead, said Tatty, and so

I weep; then said the stool, "I'll

hop, so the stool hopped; then

a besom in the corner of the

room said, Stool, why do you

hop?

(ハコカル版)

Then Tatty sat down and wept; then a three-legged

stool said, "Tatty, why do you weep?" "Tatty's dead,"

said Tatty, and so I weep; "then"

said the stool, "I'll hop," so the stool

hopped,

Then a broom in the corner of the

room said, "Stool, why do you hop?" (変化された箇所

は筆者各々の圖に書き下さない限り)

And this teeny-tiny woman was a teeny-tiny bit more  
frightened, but she put her teeny-tiny head out of the  
teeny tiny clothes, and said, in her loudest teeny-tiny  
voice, "Take it!" → TAKE IT!"

と最後の「いは」「ぬ～ぬ～～」を大文字にして、視覚的に  
団子(ハコ)の形にする。

また、「田園の子豚の物語」では、狼が子豚を外に連れ出す  
と食ぐる場面で、ハコカル版は The wolf felt very

angry at this, but thought that he would be up to the little pig  
somehow or other, ふたひつこが、ハコカル版では、  
- he would be up to - と、〈窓字体〉を〈アロック体〉に直し

～～～～～ be up to ～ば、「～に仕返しをする」へのこの意味で  
あるが、ショイコブズは、の場面はまだ一回田の掛け合ひの  
場面であり、三回の繰り返しを徐々に強めるため、あるいは、  
のみを斜字体にして強調するには控え、アロック体に改め  
たのである。

のようじ括字を組み直す」とによひて、読み手は読みやす  
くなりたり、せりあげの効果が適正化されたり、また句読点の  
打ち方が矯正されたり、間を取りやかくなったりとなる。

### (I) 書き換え

「ハリウッドズは、元の版で用いられてる単語や言ふ回しをかなり書き換えてる。例えば、「酔のだんな」では、以下のようになり書き換えてる。单語や語句レベルの書き換え（下記の訳は、当該部分の意味）

- ① poxoxism of grief → agony of grief 悲しみのあわみ  
② excessively tired → very, very tired 疲れ切つて  
③ perceived → found 知った（氣付いた）  
④ intense → great 大きい  
⑤ trembled most violently → trembled and trembled がたがた震えがとせらひ（繰り返しのいとぎに直してる）  
⑥ behold → see 見た  
⑦ declaring → said 聞いた  
など、文章レベルの書き換え。
- ① Mrs. Vinegar got down as fast as she could, and saw the money with equal delight.  
→ when she saw the money, she jumped for joy.
- 大鏡の下に隣りにいて、金貨を見ねば、喜びのあまり飛び上がった。
- 喜ぶ様子が田に見えたのよくな表現に変えられてる。  
② but in vain he attempted to play a tune,

### → it was in vain he tried to 奏の注解を起り、主語、動詞を補い、また動語をやむことなしに直してる。

### C. 数々方の書き換え

「ハリウッドズは、段々話で、日における変化をわかりやすく書

き換えてる。例えば、「the day after tomorrow」では、ハリウッド版は、日数の表示が、for the day, → The next day → The following day → The day after this みたいに書かれてる。シエイコブズは、それを曜日に変えて、Monday, Tuesday → Sundayへと書かれてる。わかりやすくてる。

### (III) 増加・削除

「ハリウッドズは、適切な追加と削除を行ってる。例えば「III 四の子豚の物語」では、話の前に滑稽な表現を四行加えてる。

### A. 追加

#### ハリウッド版

Once upon a time there was an old sow with three little pigs, and as she had not enough to keep them, she sent them out to seek their fortune.

#### ハリウッド版

Once upon a time when pigs spoke rhyme

And monkeys chewed tobacco,

And hens took snuff to make them tough,

## And ducks went quack, quack, quack. O!

昔、豚が歌を歌っていた頃、

猿がかみたばこをかんでいた頃、めんどうが丈夫にならうと、  
嗅ぎたばこを嗅いでいた頃、やしー、あひるが、グワツ、グ  
ワツ、グワツ、とわめいていた頃のハム。

THERE was an old sow with three little pigs,  
and as she had not enough to keep them, she  
sent them out to seek their fortune.

」の文句は一種の発端句であるが、」の話が残酷な話であり、  
はじぬにおもろい雰囲気を醸し出しつゝ、樂しく語り出すため  
の工夫であつたと思われる。

### B. 削除

「酔のだんな」や、ショイコブズは心情、感情を表す表現を  
削除してこな。

### (四) 削除

① ...the bargain was made. Proud of his purchase, he drove

the cow backwards and forwards to show it.

→ , and he got the cow and he drove it backwards and  
forwards to show it.

「ハドー」Proud of his purchase, (酔ひたまのやうに恥つ  
て) ところへ心情を表す表現を削除してこな。

② Poor Mr. Vinegar, his fingers grew very cold, and,  
heartily ashamed and mortified, he was leaving the

town, when he met a man with a fine thick pair of  
gloves.

かわいそうに、酔のだんなの指はヒトモ途方にしまひた。  
そして、心から恥ずかしく、悔しく思つて、町を離れよ  
うとしたちよへんの時、立派な分厚い手袋をはめた男  
に会つた。

→ Poor Mr. Vinegar, his fingers grew very cold, and, just  
as he was leaving the town, he met a man with a fine  
very thick pair of gloves.

かわいそうに、酔のだんなの指はヒトモ途方にしまひた。  
だが、だんなが町を離れようとしたちよへんの時、立  
派な分厚い手袋をはめた男に会つた。

「恥ずかしい、悔しい」という感情を表す「いは」を削りてこな。

### A. 時制の誤つた記正

ショイコブズは、時制の誤つた完全に出してこな。例へば、「三  
匹の子豚の物語」では、以下の記正をしてこな。『三匹の子豚が  
食べられる場面で、ハリウェル版は, and eat up the little pig. と  
なつて居るが、いはは曲解しては廻長形で記すべきなのぢ、ハリ  
イコブズは, and ate up the little pig. とあるこな。

### 四 文法上の誤り

シェイコブズは、語法上の訂正を行つた。「お婆れんと子豚」では、

ハリウェル版

*She went a little further, and she met a dog. So she said to the dog, 'Dog! bite pig; piggy won't go over the stile; and I shant get home to-night. But the dog would not.*

ハイコアズ版

*She went a little further, and she met a dog. So she said to him! 'Dog! dog, bite pig; piggy won't go over the stile; and I shant get home to-night.' But the dog wouldn't.*

the dog を him に変えた。英文では、すでに出てきた名詞が一度目に出てる時には、その名詞を代名詞にするのが普通であるので、自然な英文に変へ、文法的に整えてくる。また擬人化するよりほど親しみを持たせたとも見える。<sup>(9)</sup>

歴史的経緯、すなわち、前近代社会から近代社会への推移と密接な関係があった。また、英國のフォークロア界にとって、一八九〇年前後という時期は特別な時で、この時期に英國のフォークロア界には重要な動きがあり、これらの動きに合わせて、シェイコブズの『英國の昔話集』が出版されたのであった。それに、内外の昔話集の出版に刺激を受けていた当時、彼の昔話集は、昔話を記録して残そつとうへ、英國のフォークロー

リストたちの願いと符合していたと思われる。

また、彼の昔話集の出典先を見ると、彼がフォークロア学会の責任ある地位にいたことは、内外から豊富な資料を収集し利用できたという点で好都合であつたと思われる。またシェイコブズが、学会に提出された研究論文などに直に多く触れる機会に恵まれていたこととも、彼の昔話集の質を高める要因であった。当時、当学会にはアンドリュー・ラング、E. S. ハートラング、アルフレッド・ナツchnau、優秀なフォークロー

リストたちがいて、一八九一年出版の *International Folk-Lore Congress* の記録などをみると、彼らの交流が盛んであった様子がつかがわれる。<sup>(11)</sup>

この論考では、『英國の昔話集』の出目を明示し、その幅の広さがあるまゝな形態の採集があつたことを報告した。彼の集めた原話は確かなものが多かつたが、彼はその資料に独特の再話を試みている。彼の時代にどのようにして昔話の語法などを知り得たか不明であるが、彼自身が語りを聞いて育ち、彼自身

これまで述べてもだよう、昔話集の刊行は当時の英國の

が子どもたちを対象に上手に語ることのできた、すぐれたストーリーテラーであったことが、その謎を解く鍵であろう。

また、ジェイコブズが昔話の採集先として最も多く採り入れたハリウエルの書物は、実際には資料集としての機能に重点を置いて編集されており、ジェイコブズは自分の昔話集に組み込む際には、広い紙面を活かし、読みやすい体裁を心がけ、語句、文章の配置に心配りした。

ジェイコブズがハリウエル版を信頼して使用したことは、彼がハリウエル自身の再話を尊重して採り入れていることからもわかる。ハリウエルは自分が削除した箇所を、必ず、注に掲載しているが、<sup>12</sup>ジェイコブズは忠実にその箇所を削除して、自分の再話を完成している。

その他、彼の再話法の一部を紹介したが、他にも、彼はさまざまな再話を試みている。例えば、「酢のだんな」では、称号のピリオドを外し、音色の響きを変え、古い表現を当時の新しいことばに直すなどの配慮をしている。

今回はハリウエル版からの再話について簡潔に記したが、筆者は現在、四三話のうち、比較検討の可能な話を詳しく分析している。例えば、他の話では、アメリカから採り入れた話で、英國には存在しない動物が出てくると、彼は英國にいる動物の名称に変えている。また論理的に整合性のない箇所は聴き手にわかりやすいように書き換えたりしている。また音に合わせて記してある単語（視覚方言）を、ある箇所ではそのまま活かし

たり、ある箇所では当時の正しいスペリングに直したりしている。これら一連の再話の理由は、昔話集の序文に書かれた彼の意図通りである。すなわち、彼は「読みやすい文体、聞いてわかりやすい文体」に再話することに徹底していたのである。

## 注

### (1) Joseph Jacobs (一八五四—一九一六) オーストラリア

ア生まれのユダヤ人作家、歴史学者、民俗学者。英國で昔話を収集、出版した（当時は英國に在住）。彼は初め、ユダヤ歴史学者としてその名を知られ、ロシアでのユダヤ人の迫害について研究し、その成果を出版した。一九〇〇年に『ユダヤ百科事典』の編集をしたことがきっかけになり、その年、アメリカ、ニューヨークに渡り、アメリカ市民権を取得。ユダヤ研究をすることが、昔話に対する関心をさらに深めることになった。一八八九（一九〇〇年には、英國の昔話専門誌、*Folk-Lore*（『フォーカ・ロア』、フォーケ・ロア・ソサイアティ刊）を編集した。そこで収集した昔話を一八九〇年に『英國の昔話集』として出版した。この昔話シリーズ以外にも、*Indian Fairy Tales*（『インドの昔話集』）（一八九二）や、六巻に及ぶ、『アラビアン・ナイト』（一八九四）などを出版している。なお、彼のユダヤ史に関する主たる研究は、

*Jews of Angevin England* 「アンジュー王家のユダヤ人」)

(一) *An Inquiry into the Sources of the History of the Jews in Spain* 「スペインのユダヤ人歴史の源を求めて」) (一八九三) などもおなじ。

(二) *Nursery Rhymes and Nursery Tales of England*, James Orchard Halliwell, Frederick Warne and Co., 'London' 1849.

(三) *chapman chap-books* (通俗的な読み物) を売り歩いた行商人。

(四) 一八三五年、デーナークドは W. C. アンドルセンの『童話集』、一八四五年にはノルウェーで P. C. アスピヨルハセハーツ、モーによつて『ノルウェー昔話集』が出版され、一八六六年にはロシアで A. アファナーシエフの『ロシア民話集』の初版本が出てゐる。その後、英國でも一八八九年にアンドリュー・ラングが『妖精物語集』の第一巻 *The Blue Fairy Book* を出版した (挿絵の多くは H. J. Ford)。以降、一一色の『妖精物語集』となり、最後の巻は一九一〇年に出されてしまう。彼の物語集には世界中の話が入つており、大いに人気を博した。この時、時期を同じく出版されたのが、ジェイコブズの昔話集であつた。まさに英國の昔話集出版の全盛期にあたる時期であった。

(五) *English Fairy and Other Folk Tales, Selected and Edited, with An Introduction by Edwin Sidney Hartland, Walter Scott,* London, 1890.

(六) *Notes on the Folklore of the Northern Counties of England and the Borders*, William Henderson, S. Barling-Gould, M.A, London, 1866.

(七) ハリウェルにはいわへいもの話が残つてゐる。彼は収集家としてよつと、文学色の強きフォークロア学者として知られており、当時流布してゐたライム、俗信、習俗などの起源を、初期のブロードサイルや小冊子、あるいは

一七世紀の故事研究家の業績にまでさかのぼつて明らかにしており、当時流布してゐたライム、俗信、習俗などの起源を、初期のブロードサイルや小冊子、あるいは二十四歳のときに、収集を充実させるためにケンブリッジ大学図書館から写本を何点か盗み出したと告発されている。事実の真意はともかく、彼が収集に難儀していた様子をうかがわせる逸話である。

A *Dictionary of English Folklore*, Jacqueline Simpson & Steve Roud, Oxford University Press, Oxford, 2000, p.162.

(八) ジェイコブズは (注) に、「子豚にはひげがないのぢ、元はありひげのある動物の話であつたと思われる。例えば、グリム兄弟の童話にある「おおかみとくちの子やね」などに関係してゐる」と記してゐる。

(九) ジュイコブズは「(カハマ)を:(コロハ)

に変えている。次に「会話」が来る時には、通常（カンマ）

を打つのが普通であるが、ジェイコブズは、このよつて、

会話の前に、よく：（コロン）を打つた。コロンは必ず、

〈長い引用〉の導入や、〈述べたこと〉について説明や解説などが続くことを示す記号である。この部分では、カ

ンマの後に繰り返し部分が来る（段々話があるので、以下、

累積的に増加していく）ことを視覚的にわかる記号として、

カコマを使用したと思われる。（つまり〈読み先に注

意を促す〉ための記号として使用したのであれば。

(10)

九話の分析のうち、二話は他の七話と明らかに再話の方法が異なるので、今回の論考の報告からははずし、別の機会に報告する」とした。

「親指トムの話」—ジェイコブズは、この話を、ハリウエ

ル版の中のチャップ・ブックと、ハーメランの *English*

*Folk and Fairy Tales* から取り入れて再話したと記してい

るが、実際には大部分をハートランド版に基づいて書き

直している。従って、この話の分析はハートランド版の

分析の際に用いることとする。「井戸の中の三つの首」—彼

はこの話を全体的に書き直してくる。この直しの手法は、

他の八話における部分的な直しとは相当違うので、この

論考で同じように報告する」とはふさわしくないと思われる所以で、今回の報告でははずした。

(11) *International Folk-Lore Congress 1897, Edited by Joseph Jacobs and Alfred Nutt, David Nutt, London, 1892.* 特に卷

頭の、この学会の歴史に関する部分（ジェイコブズと A. ナット）、また続く挨拶文（W. S. ハートラン）などを

を参照されたし。p. III - XXXIII, 1-39.

(12) 「お婆さんと子豚」はいわゆる事物が累積していく段々話であるが、ハリウエルは文章が長すぎて、聽き手の注意がそがれないよう適切に削除している。ジェイコブズも冗漫にならぬよう、同じ箇所を削っている。

*Nursery Rhymes and Nursery Tales of England, James Orchard Halliwell, Frederick Warne and Co., London, 1849, p.115.*

（ペニンスル・エヌミ／フェリス女学院大学）